

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県	学校名	式下中学校		
人権課題	同和問題	対象学年・ 取り扱った教科等	第3学年 総合的な学習の時間	時数等	3 時間
目標・人権教育のねらい	○1、2年の部落問題学習(中世編～近代編)で学んだことを通して差別の不合理さに気づき、部落差別を自分事として捉えて、なくしていこうとする態度を養う。 ○差別をなくしていくために協力して問題を解決する技能を磨く。 ○差別に立ち向かった人々の生き方に共感し、より良い社会にしていくなために必要なことを考える。 ○差別をしていないつもりであっても、自分の言動や行動が誰かを傷つけているかもしれない可能性について立ち止まって考える力をつける。				
実施した内容	・ 部落問題（結婚差別）を取り上げた教材「明日を創る！」を映像化したものを視聴し、父親が結婚を反対した理由を考える。 ・ 周りの目を気にして結婚を反対をすることについて、差別はいけないことだと認識し、差別をしていないつもりであっても、自分の言動や行動が誰かを傷つけているかもしれない可能性について考える。 ・ 結婚差別に第三者の立場でありながら、周りの人々と協力して解決しようとした物語の主人公が、どのような行動を取ったのかを、学級のなかまと共に考える。 ・ 社用紙の項目を、様々な状況に置かれている人を想像して必要、必要ない、書きにくい、わからない、微妙に分類し、なぜそうしたのかを話し合う。 ・ 近畿統一応募用紙が制定された歴史から、おかしいことに気づいて声をあげることで世の中は良くなってきていることや差別はまだ残ってはいるけれど、恐れず希望を持って生きていくことの大切さに気付く。				
工夫した点	・ 身近な話題として捉えられるように教材を教員が映像化したり、自分や身近な人の経験を話したりした。 ・ 差別は絶対にしてはいけないことを前提としたうえで、差別的な行動言動をとった人を単純に悪とするのではなく、なぜそうなったのかを考え、差別の本質や自分の中にもある差別心について向き合うような発問を考えた。 ・ これまでに学習した性の多様性、部落問題学習やハンセン病問題学習などの人権学習で学んだことを活かして、様々な立場の人の視点で物事を考えさせた。 ・ なかまと意見を交流したり、共同して問題の解決策を話し合う活動を設定した。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・社会科の歴史的分野にて、社会運動について学習した。その際には、総合的な学習の時間での部落問題学習とのつながりを意識し、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返らせながら社会科の指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：「部落差別問題の現実を知り、なぜ人は差別をするのか考える。」
 - ・自分とは違う人を見て妬んだり、劣等感を抱くことで差別が生まれるのだとわかった。
 - ・昔の差別のことをネットなどで調べられるようになった今でも差別し続けていることに驚いた。差別をする前に、なぜ差別をするのかを調べる必要があると思った。
 - ・部落問題はもう終わっていると思っていたけれど、いまだに終わっていないと知って驚いた。差別はみんながいけないことだとわかっているけど、無意識にやってしまうことや周りの目を心配して、してしまうこともあるという事が分かった。
- 【児童変容の分析】「差別はしてはいけない」という表面的な感想ではなく、なぜ人は差別をするのかということや、自分自身を見つめなおすことの必要性があるということ学んだという意見が見られるようになった。
- ・価値・態度的側面：「差別に出会ったときにどうすればよいのか考える。」
 - ・その（差別の）現状を知っても、どうしたら改善されるのかを考えるとところまでしないといけないと思った。
 - ・いろいろな問題に関心を持ち、理解することで差別の根絶に繋がるのではと考えた。
 - ・差別はいけないとたくさんの人が思っていると思う。その中でどこか他人事だと思っている人が当事者になったときに差別してしまうのかもしれない。
 - ・まだまだ差別を理解している人が少ないと思うので、もっと学びを深めていきたい。
- 【児童変容の分析】自分事として捉えることや、知るだけでなく改善していく方法まで考える事の必要性を感じ取ることができたという意見が見られるようになった。
- ・技能的側面：「差別を自分にも関係のあることとして捉え、差別をなくすために行動することができる。」
 - ・これから生きていても実際に聞くこともあるのだろうと思った。だから私たちがこの問題を知って分かることが大切だと思った。それを次に伝えていくことも大切だと思う。
 - ・正直自分も知らずに差別していそうなので気を付けようと思った。
 - ・「この人はこんな人だから差別する」ではなく、一人ひとりが互いに支え合って差別の問題を解決していくべきだ。
 - ・差別を減らすことができるように貢献していきたい。
- 【児童変容の分析】部落問題を知るべき問題だと捉え、協力しながら差別をなくすことに貢献していきたいという意見が見られるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県		学校名	式下中学校	
人権課題	インターネットによる 人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年・総合	時数等	1 時間
目標・人権教育のねらい	・自他の存在を大切にする生徒を育てること ・日頃の言動とインターネットを介した受信・発信時に人権に配慮できる情報リテラシーとコミュニケーション能力及び危機回避能力を身に付けさせること				
実施した内容	全学年ネットトラブル防止教室 奈良県警少年サポートセンター職員による講話と啓発DVD視聴				
工夫した点	日々深刻な相談事例を取り扱っておられる警察の方から直接お話をうかがった。主に危機回避についての認識をもてるように、実例に基づく講話をしていただけた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

・特別活動において、よりよい人間関係について学習した。その際には、総合の時間を使ったネットトラブル防止教室で学んだ内容を振り返らせながら、情報リテラシーを生かしたよりよい友人関係を形成する指導を行った。

事業成果

どの生徒もインターネットに触れる時間は相当長く、ネット依存（ゲーム障害）の傾向ある生徒も存在する。影響が軽微なうちに、ほどよいバランスを取り戻してほしいところであるが、心理面や生活面に悪影響を及ぼしているケースも散見する。また、利用のしかたには受信・発信時の情報リテラシーを必要とするが、それが兼ね備わって、端末を使用できる生徒を育てたい。

☆知識的側面

（全国学力・学習状況調査生徒質問紙）携帯スマートフォンでのSNSや動画視聴時間について

2時間以上 R4 58.6% R5は設問にないが同様の傾向もしくは長時間化が心配される状況である。

【生徒変容の分析】

R4の調査ではいわゆるスクリーンタイムの長さに驚くとともに、家庭での生活ぶりが想像できた。SNSの受信時・発信時に情報リテラシーを働かせることのできる生徒であってほしい。匿名性にかくれて他者を傷つけるような行動はあってはならないことを伝えていく。

☆価値態度的側面

（全国学力・学習状況調査生徒質問紙）いじめはどんなことがあっても許されることではない。

どちらかといえば、当てはまらない R5 1.1% R4 4.9% あてはまらない R5 3.2% R4 2.4%

【生徒変容の分析】

・「どんなことがあっても許されないという認識をもてれば、「加害者のいないところに被害なし」という考え方が理解されていく。③④の回答生徒は、理由を見つけ出し、双方に悪いところがあるという考え方であるが、理由があればいじめてよいことにはならないことをきっちりと理解させたい。

☆行動的側面

（全国学力・学習状況調査生徒質問紙）読書は好きですか。肯定的回答R5 72.1% R4 75%

【生徒の行動変容】

・読書時間が長いほど、情報端末に左右される時間が縮減されていると判断できる。読書を行動に移せる生徒であってほしいが、読書時間はきわめて少ない傾向にある点を改善したい。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県		学校名	式下中学校	
人権課題	ハンセン病	対象学年・ 取り扱った教科等	2年・総合	時数等	14時間
目標・人権教育のねらい	○郷土にゆかりの偉人忍性さんに出会う。 ○ハンセン病の歴史や正しい知識を身に付ける。 ○ハンセン病問題を通して、差別問題が現代も残る問題であることを知り、自分の中の差別意識に気づく。				
実施した内容	・郷土の偉人である忍性さんが生きた時代がどのようなものだったかを知る。 ・忍性さんがハンセン病の患者に寄り添ってこられたことから、ハンセン病問題についての歴史や正しい知識を身に付ける。 ・映画「一人になる」を鑑賞し、制作実行委員会委員長である訓覇浩さんの講演から、ハンセン病が自分たち自身にも関係のある差別問題であり、いまだに解決しない現実があることを受け止め学んでいく。 ・ハンセン病回復者の方と出会い、当事者の方やその家族の方々の思いについて知り、その方々の願いについて考える。 ・2003年に九州の温泉で起こった宿泊拒否に関わる社会問題から、現代に残る差別について考える。 ・新型コロナウイルスの流行の際に起こったさまざまな問題を取り上げ、ハンセン病問題と比べ、相違点や新たな問題、当時よりも良かった点などについて考える。				
工夫した点	一連の人権学習に並行して、次のような取組を行い、学びの基礎作りを行った。 地域教材：絵本「忍性さん～笑顔のお坊さん～」を取組の出発点に位置づける。 地域ゆかりの高僧忍性さんの行動に照らして自分の生き方を考え、忍性さんの存在を身近に引き寄せる。 忍性さんを身近に感じていけるように、紙芝居制作の会を立ち上げ、長期間をかけて、手作り紙芝居「忍性さん～笑顔のお坊さん～」を制作し、全校生徒向けに2回発表した。1回は、11月10日の文化祭、2回目は、12月7日の芸術鑑賞会で英語版で披露した。 第2学年ではハンセン病問題の当事者の方や、この問題をライフワークとして取り組んでおられる方と出会い、自分にかかわる大事な問題であるということを伝えることに意を用いた。 感想や意見として記されたものからは、生徒なりの感性でしっかりと受け止めていることがうかがえる。 自分を語っていただいた回復者の方の思いにこたえられるよう、生徒とともに考えていくことを大切に学習を進めてきた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

・特別活動において、集団生活のあり方について学習した。その際には、総合の時間を使った人権学習での指導内容とのつながりを意識し、学んだ内容を振り返らせながら、対人関係を形成する指導を行った。

事業成果

・知識的側面：「学校での道徳や人権学習では、生きるうえで大切なことを学んでいる。」 昨年度：95%⇒今年度：95%

【生徒変容の分析】

（そうではないという生徒の意見）＝「それでいじめがなくなるのなら苦労しない。そのときだけいい人になって言ってほしい意見を言っている。実際なくならないのが現実。教科書で学ぶのではなく、経験や人間関係から自ら考えて学ぶものだ。」このように深く考えられる生徒がいる。この少数生徒の意見をしっかり受け止める必要がある。ただ、道徳の時間を使った人権学習での学びが日頃の生活の中に生かされ、他者理解ができる集団が育ちつつあることも感じている。

・価値・態度的側面：「自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。」 昨年度：98%⇒今年度：97%

【生徒変容の分析】

数値的には高い状態できているのは、生徒会活動において、スクールビジョンを受け止めて、「全員が安心できる学校」をスローガンに、生徒・教職員が力を合わせて学校活動を進めてきてもらったおかげである。

・技能的側面：「学校は悩みや不安の相談に乗ってくれる。」 昨年度：80%⇒今年度：82%

【生徒変容の分析】

あまりあてはまらない30人、改善を要する10人 学期毎の二者面談等こまめに相談場面をつくっているが、十分とは言えない状態と受け止めている。生徒には、人間関係で孤立することなく、困ったときにどこかに相談を持ちかけることのできる力（「相談力」）を身に付けてほしいと考え、教員を相談相手として選んでくれる関係性を築いていけるよう努めている。課題を抱える生徒への対応に注力していくが、そのなかでも、あまり目立たない生徒にこそ声をかけていくことを忘れないようにしていきたい。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県	学校名	式下中学校		
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年・総合	時数等	2 時間
目標・人権教育のねらい	「外国人問題」について学習し、その歴史的背景や現代社会における差別の現状を学習する。差別や偏見のない社会を実現するために自分たちができることは何かを考え実践しようとする態度を育む。				
実施した内容	2024年3月11日にエル・プロジェクト講演会として実施予定、講師にボーカリスト染谷西郷を迎える。南アフリカにルーツをもつことによっていじめを受けてきた小中学校時代のエピソードをまじえ、「アパルトヘイト・差別・いじめ・夢」をテーマに「染谷西郷トーク&ライブ～ROOTS OF SAIGO SOMEYA～」を開催。				
工夫した点	①「いのち・愛・人権」について深く考える機会とする。 ②生き方のモデルになるアーティストからのメッセージを受け止め、今後の生活に生かす。 ③卒業目の3年生へのエールとなることを願う。				

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

・特別活動において、集団生活のあり方について学習。その際には、総合の時間を使った人権学習での指導内容とのつながりを意識し、学んだ内容を振り返らせながら、対人関係を形成する指導を行っていく。

事業成果

☆知識的側面

(R 5 学校評価) 学校には魅力的な行事や取組がある

よくあてはまる 1 年 20% 2 年 24% 3 年 35% (R 4 順に 15% 20% 29%)

ややあてはまる 1 年 64% 2 年 60% 3 年 59% (R 4 順に 68% 66% 49%)

☆価値・態度的側面

(R 5 全国学力・学習状況調査生徒質問紙) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う

あてはまる 78.5% どちらかと言えばあてはまる 17.2% (R 4 順に 76.4% 16.3%)

☆行動的側面

(R 5 学校評価) 自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。

よくあてはまる 1 年 52% 2 年 53% 3 年 71% (R 4 順に 59% 56% 60%)

在日外国人問題は、当初の計画では、在日韓国・朝鮮人問題を 3 学期に実施する予定であったが、計画変更を行った。3 月 11 日に予定しているエル・プロジェクト講演会が関連するテーマとなることから、この日の学びを在日外国人問題についての学びとして大切に取り扱う。その成果は、現 2 年生が受ける 4 月の生徒質問紙調査や R 6 の学校評価(上記項目)や日々の学級集団の様子から見てとっていききたい。

(第 3 学年で在日韓国・朝鮮人問題を取り上げるかどうかは未定である。)

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県	学校名	式下中学校		
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年・特活	時数等	2 時間
目標・人権教育のねらい	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる、安心で安全な環境作りを進める。				
実施した内容	・生徒会活動による校則改定（R4～R5） 子供の意見を学校生活に反映させること ・第3学年の公民的分野の学習において、生徒の県政についての意見文を奈良県知事公室広報広聴課県民相談広聴係に届ける取組（その際、子供の意見表明を尊重し、大人側の手続き上の諸条件も一つ一つクリアしながら、子供の活動を生かすよう意を用いてきた。）				
工夫した点	生徒総会で、「全員が安心できる学校」をつくるために必要なことを考え、意見を寄せ合うなど、生徒同士の心のつながりを重視した生徒会活動を応援してきた。自分たちの意見が取り上げられる、また、意見を述べることができるという手応えを感じられるよう、子供の声に耳を傾け、教師側が生徒の意見を否定せず、校則改定の実現の可能性を探るよう努めてきた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

・特別活動において、集団生活のあり方について学習。その際には、総合の時間を使った人権学習での指導を通して自他を大切にする姿勢を培うことを大事にしてきた。

事業成果

☆知識的側面

(R 5 学校評価) 楽しく安心して学校生活を送れる。

よくあてはまる 1年43% 2年39% 3年64% (R 4 順に 45% 46% 55%)

ややあてはまる 1年46% 2年52% 3年32% (R 4 順に42% 48% 39%)

☆価値・態度的側面

(R 5 学校評価) 自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。

よくあてはまる 1年52% 2年53% 3年71% (R 4 順に 59% 56% 60%)

☆行動的側面

(R 5 学校評価) 係・当番活動や生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる。

肯定的回答 1年93% 2年86% 3年95% (R 4 順に 87% 93% 94%)

◎学校行事において学級毎のまとまりが見られたり、学校全体の一体感が感じられたりするなど、日々の一人一人の子供を大切にする取組の成果がみてとれる場面があった。

◎子供を守るため、一人一人の様子を観察し、変化を察知し、声をかけ、相談してもらえるように心がけた。ケースに応じてケース会議をもち、組織対応を心がけ、家庭や関係機関と連携し、いかにして子供を守るかを大事にしてきた。

◎次年度も、「全員が安心できる学校」を目指して、教員が子供に安心感を与えられる関係性を築くことから取り組んでいきたい。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県	学校名	式下中学校		
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	1年・総合	時数等	5 時間
目標・人権教育のねらい	特別支援を要する人について学び、共に生きる社会づくりの一步として、安心して過ごすことができる学校づくりについて考える。				
実施した内容	①障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（2016.4）による合理的配慮の考え方について ②心のバリアフリーについて ③目に見えない障害について ④輝く人たちについて ～片足の全米レスリングチャンピオンアンソニーさんからのメッセージその他～ ⑤無理解から起こる差別 ～相模原障害者施設殺傷事件の問題から～				
工夫した点	系統立てて、障害者問題を取り上げていった。学年間で共有しているパワーポイント資料を再利用することで、各学級担任が取り扱いやすくなった。パワーポイント内に含まれる映像視聴は、生徒の感性に呼びかける内容で、視聴の意義が十分に感じられる内容であった。日常生活内の差別的言動の問題を振り返る内容になっていたのも、課題ある学年の生徒の実態にそくしていた。両町社会福祉協議会の協力で車椅子体験学習を行っているが、その活動への動機付け、事前学習的な内容も含めることができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

・特別活動において、集団生活のあり方について学習した。その際には、総合の時間を使った人権学習での指導内容とのつながりを意識し、学んだ内容を振り返らせながら、よりよい友人関係を形成する指導を行った。

事業成果

☆知識的側面

(R5 学校評価) 学校での道徳や人権学習では、いじめ防止や生きる上で大切なことを学んでいる。

よくあてはまる 1 年 48% 昨年度 1 年 54%

【生徒変容の分析】

「差別の場面に出会ったとき、あなたは どうしますか。」という問いかけに、

- ・理解して、知識をつけて、何か一言言いたい。
- ・「やめろ!」と言いたいけど、心細いから言えない。
- ・差別のことを言っている人にはちゃんと説明してわかってもらえるようにする。

等の意見がたくさん出てきている。学習はある意味、知識をもつことであるが、行動につながるかが重要である。

☆価値・態度的側面

(R5 学校評価) 自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。

よくあてはまる 1 年 52% 昨年度 1 年 59%

【生徒変容の分析】

第1学年は、生活態度や人権認識の面で課題のある学年であったが、7月に行われた車いす体験学習では、両町社会福祉協議会の皆様の指導を受けて、相手に対して配慮する心を学ぶことができた。指導者の方からも、生徒の参加態度を好感をもって受け止めていただけた。家族に障害をもつ方がおられる生徒もいて、この学習をおろそかにしてはいけないという表情も感じられた。「よくあてはまる」の値が向上するよう、学級指導を深めていきたい。

☆技能的側面

(R5 学校評価) 楽しく安心して学校生活を送れる

よくあてはまる 1 年 48% 昨年度 1 年 45%

【生徒変容の分析】

特別支援学級生徒にはさまざまな特性やこだわりがあることを受容し、ともに育つなかまとしてのかかわりができる生徒を育てていきたい。支援学級生徒への無理解や誤った認識の表れとしての言動が1学期は見られたが、学級担任の粘り強い言葉がけにより、なかま集団の姿は少しずつ成長が見られるようになってきている。支援学級の生徒が、「楽しく安心して学校生活を送れる」と感じているかどうかの問題であるので、そのことを目指して学級集団づくりに引き続き取り組んでいきたい。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	奈良県	学校名	式下中学校	
人権課題	性的マイノリティ	対象学年・ 取り扱った教科等	1年・総合	時数等 4時間
目標・人権教育のねらい	○男女の役割についての固定的な考えを取り除き、「男らしさ」「女らしさ」ではなく「自分らしさ」を大切にする心を育てる。 ○LGBTQ+の人の現状や課題について理解し、すべての人の性のあり方を尊重する態度を養う。 ○性に関わるカミングアウトに対して、自分がかかるべき言葉を考える取組を通して、相手に寄り添う思いやりの心を行動化できる生徒を育てる。			
実施した内容	・ACジャパン「聞こえてきた声」のCM視聴や職業当てクイズを通して、自分の中にある固定的な観念に気づく。 ・「男なんだから○○」「女なんだから○○」と言われたり、聞いたりした経験を振り返り、「ジェンダーバイアス」についての正しい知識を身に付ける。 ・性のあり方（セクシュアリティ）の4つの要素を知り、その組み合わせから性は多様であることを学ぶ。 ・数本の動画視聴を通して、LGBTQ+の人の実際の声を聞き、現状や課題について知る。 ・性に関わるカミングアウトに対して、自分がかかるべき相手に寄り添える言葉を考える。 ・「りんごの色～LGBTを知っていますか？～」を視聴し、自分自身のセクシュアリティや「自分らしさ」について考える。			
工夫した点	・クイズや動画視聴などを積極的に取り入れることで、生徒が興味をもって参加しやすいようにする。 ・実際の体験を振り返ることで、「ジェンダーバイアス」が身近にあることに気づけるようにする。 ・授業後の感想をフィードバックすることで、クラスメイトの考えに触れられるようにする。 ・ワークシートの項目によっては、全体での意見交換や共有をやめ、全員が安心して意見を書けるようにする。 ・最後に、LGBTQ+に関する課題を取り上げることで、今後も考え続けるべき問題であることを意識できるようにする。			

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

2学期に保健体育科にて、「性意識の変化」について学習した。「性のあり方」の導入では、保健体育科で学習した「同性に関心を持つ人や、誰にも性的な関心を持たない人もいる。」という知識を復習してから指導を行った。

事業成果

・知識的側面：「学校での道徳や人権学習では、生きる上で大切なことを学んでいる。」99%

【生徒変容の分析】

最初の授業内での生徒の発言には、「難しい。」「言葉で何と表現していいかわからない。」というものも多かったが、難しいながらも一生懸命向き合い、考えようとする姿勢を評価した。授業を重ねるごとに、生徒の授業後の感想には「知らないうちに人を傷つけていることがあるんだと思った。」「もしも将来、性についてカミングアウトされることがあったら、よく相手のことを考えて、一番適した言葉をかけてあげたいと思いました。」など、自分自身のこれまでを振り返ったり、これからのことを意識する様子もうかがえた。道徳や人権学習での学習が、生活の中に生かされつつあると感じている。

・価値・態度的側面：「自他の生命やそれぞれの人格を大切にし、協力しながら仲良く生活しようとしている。」96%

【生徒変容の分析】

入学した当初は身近にいる誰かとの「ちがい」を認めることが難しく、距離をとったり、攻撃的になってしまうことも少なくなかった。しかし、授業だけでなく朝の会や帰りの会、学校生活のさまざまな時間を使って粘り強く伝え続けることで、少しずつ「みんなちがって当たり前。」という感覚を持てるようになってきたと感じている。みんなが認め合い、協力しながら仲良く生活することの大切さを伝え続けていきたい。

・技能的側面：「楽しく安心して学校生活を送れる。」89%

【生徒変容の分析】

「全員が安心できる学校」というスローガンをもとに、各クラスでの「安心ルール」の設定や定期的な振り返りなど、細かい活動の継続を行っているため、低い結果ではなかった。ただ、「あまり十分でない」と答える生徒が8%、改善を要すると答えた生徒が3%いることを踏まえると、十分満足できる結果ではない。生徒が答えている改善策には、「みんなが人の気持ちを考えて行動する。」とある。生徒に人の気持ちを考えるよう伝えるのは当然のこと、教員も「みんなが楽しく安心して学校生活を送れる学校づくり」を意識して、教育活動を行っていききたい。